

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201000		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホームほんわかハウス新館		
所在地	福岡市西区今宿青木792-4 (電話) 092-805-8800		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 31 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者お一人お一人の個性を尊重し、その方のペースに合わせたケアを行っております。外出活動においても、ドライブや買い物等は予定を立てずにその日その日で行い、同法人内のグループホームと共同し、紫陽花ツアー、野球観戦等開催しております。又、地域の夏祭りや、公民館で開催されます地域懇談会にも参加しております。施設につきましても、8:30~17:30までは開錠し、いつでも出入り出来る環境を作っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 9 月 7 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は国道傍の住宅地に位置し、和風の玄関が昔懐かしい落ち着いた雰囲気醸し出している。事業者は2階建てで各階1ユニットである。ユニット内は一般的な家庭での生活を基本にした環境になっている。

職員は利用者が家族やボランティアを始め、多くの人と関係を保ちながら、自然体で過ごせる個別支援を目指している。また様々な行事を通して喜びを共有するケアに取り組んでいる。

更に年間を通して、職員の外部研修への参加と内部研修の機会が計画的に確保されており、事業所の質の向上と職員のスキルアップにつながっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、利用者様に尊敬を持って接している。玄関に理念を置き、いつでも閲覧出来るようにし、常に意識する事を心掛けている。	事業所独自の理念には、利用者の人格の尊重や地域密着の視点がある。職員は理念の実践に向けて、利用者がゆっくと楽しく過ごせるような個別ケアと、地域や家族との結びつきを重視した取り組みに日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日々、ご近所の方には挨拶は勿論、夏祭りに参加したり、ご近所の方に月1回手芸会開催して頂いたり、教会の方による歌の会を開催し、地域の方とも交流している。又、町内の草取りや地域の公園清掃等にも参加している。	事業所は自治会に加入し、地域活動である公園清掃や夏祭り等に参加している。また事業所の歌の会への地域住民の訪問や、日常的にボランティアが訪れる等、近隣の住民や園児が気軽に立ち寄れる関係を築いており、相互に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回地域交流会を行い、事業所の現状報告、事故報告やヒヤリハットの報告を行っている。又、今宿校区懇談会にも参加し、今後地域で出来る事がないか話し合っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に1回運営推進会議を開催し、活動内容や意見交換をし、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月1度開催され、利用者家族、行政、町内会役員、老人会や福祉事業者関係者が参加している。会議で出た意見はサービスに反映させていくよう努めている。今後、会議で事故報告と事故防止の取り組みを報告する予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや町内会長とも運営推進会議を通して、情報交換や相談を行っている。	行政とは介護保険の手続きや物品購入の相談、空室状況の連絡等を行っている。また、地域の介護事業所ネットワーク会議への参加で、行政事業に関わり、地域への協力体制の調整に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、誰でも出入り出来るようにしている。年1回勉強会も行い外部研修にも参加している。勉強会を通して職員は理解出来るよう努めている。現在、転倒転落の危険が著しく高い入居者様にご家族の同意を得て、昼夜四点柵を使用している。夜間帯は良く休まれている際には足元の柵を外し、センサーを設置して対応している。	玄関やベランダへの出入り口は施錠しておらず、職員は利用者の外出傾向を把握して見守っている。身体拘束ゼロへの手引き、研修資料を用い、全職員を対象に毎年研修を行っている。また利用者本人、家族が安全確保で希望しベッドの四点柵を導入しているが、事業所は解除に向けての改善に努めている。	今後、ベッドの四点柵の解除に向けての取り組みの過程で、検討内容や利用者、家族との協議内容等を必ず記録し、ベッド柵で困む以外の方法を実践してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回社内研修に取り入れ、外部研修にも参加し、勉強会を通して職員は理解出来るよう努めている。日々のケアの中で入居者様の身体を観察し、体の痛み等早期発見に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回社内研修を行い、職員は理解出来るよう努めている。	権利擁護に関する制度に関して、家族に利用開始時や必要に応じて説明をおこなっている。職員の制度理解に繋がるよう、テキストやパンフレットも準備し内部研修を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、ご家族に不明点がないように十分に説明をしている。入居後もいつでも相談に乗っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時は勿論、普段からコミュニケーションをよく図り、いつでもご意見ご要望、苦情等お話ししやすい環境作りに努めている。	職員は日ごろから利用者、家族の意見が出やすいよう積極的に言葉かけを行い、要望や意見を聞いている。食事や外出先の要望をはじめ、マットレスのクリーニングを行う等、可能な限り対応している。事業所以外の第三者相談窓口の説明は利用開始時に行い、階段の正面に窓口の案内を掲示して制度を紹介している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ユニットミーティングを行い、職員同士の意見交換を行っている。ミーティング以外でも意見を出しやすい雰囲気作りをしている。	毎月1回のミーティングで、職員の意見を聞くようにしている。発言が少ない職員にも現場で一緒に働く管理者が仕事に聞きとったり、アンケートを用いて意見を聞き出す工夫をしている。出された意見は、ミーティングで検討され、ソファの位置の変更や介護方法等、事業所運営に反映されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表は職員の要望も取り入れ作成している。職員が病欠の際は、勤務変更等の対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	日々、職員の能力把握に努め、長所を伸ばせるような指導を行っている。職員が意見提案しやすい環境作りに努め、配属に関してはユニットの人員状況等を考慮して行っている。	職員の採用は法人本部によって行われているが、本人の希望や適性により配属され、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。毎年の自己評価や職員の適性で、法人や他事業所へ異動することも可能である。また、60歳の定年後も契約職員として安心して働ける職場環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回、外部研修を受講し内部研修を行い、人権について学んでいる。	毎年、人権啓発の外部研修を管理者が受講し、全職員に伝達研修している。高齢者や障害者の人権に関する研修が主で、伝達研修終了後、職員は全員レポートを提出し、研修内容の学びに努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎月勉強会を開催し、外部研修にも積極的に参加できるよう努めている。新しく入ってきた職員へは新人研修を行い、指導育成に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、他の施設を訪問し情報交換等行っている。他施設の運営推進会議や伊都の会にも参加し勉強会や意見交換等を行い、サービスの質の向上を目指せるよう活かしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはご家族の協力の基、ご本人の要望を取り入れ、安心して暮らしていただけるよう、環境を整え支援出来るよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が意見・要望を伝えやすいようこちらから積極的にコミュニケーションを図っている。ご家族がなんでも相談でき、話やすい場となるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人が困っている事、不安な事を傾聴し、その人らしく要望に沿った支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より一緒に家事等行う事で支えあっている。ご本人の居室に入室し、リネン交換、掃除、衣類の整理を一緒に行い関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ご家族にお便りを書き、ご本人の様子をお伝えしている。ご本人の心身状態や変化があった際は、ご家族へ連絡し、相談している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へドライブへ行っている。馴染みの方に電話を掛けたり、ご本人に代わって会話する等、支援に努めている。	事業所は、利用者の友人や知人が気軽に訪ねてこられる環境を作っている。また、利用者の生活していた地区の夏祭りに一緒に出掛けることで知人と再会でき、更に家族に利用者の近況を写真を添えて送る等、馴染みの関係が途切れないように積極的な支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、リビングの席決めやドライブ時の座席を考えている。利用者同士コミュニケーションが図れない時は間に入り代弁している。洗濯たたみ等の作業を複数人で行い、話ができる環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡している。ご家族より問い合わせがあった際はいつでも相談にのり、支援出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族に聞き取りを行い、ミーティング内で意見を出し合いケアプランへ反映できるようにしている。日々のケアの中でどのように過ごしたいのか窺い知る事が出来るように多く関わりを持っている。	日常生活の中で利用者の要望や思い・意向を把握できるように声かけをしている。意思疎通が難しい利用者には、表情や言動から思いを推し量ったり、家族から情報を得るようにしている。利用者が食べたいものを外食で食べに行ったり、買い物希望があるときは一緒に買い物に行く等要望や意向に沿うようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、シートにまとめている。その後もご家族来訪時に伺ったり、ご本人へも日常会話の中で昔の話等よくお話させて頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、排泄・睡眠記録を記入し、出勤時に目を通し把握している。日々、お一人お一人の小さな変化にも気づけるよう、職員間でもよく話し合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の意見・意向を基に実現できるよう作成している。ユニットミーティング内でも計画案を募り、作成している。モニタリングや再アセスメントを行い、よりよいケアが出来るよう介護計画を作成している。	本人や家族の思いや職員・医師等の関係者の意見を取り入れながら、担当者が中心となって介護計画を作成している。6か月に1回、又利用者の状況変化時には介護計画を見直している。介護計画を見直した時はその都度、家族に報告し同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの見直しシートを作成し、アセスメントや各種記録を見直し、職員間で共有している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や職員からの提案を含め、最善のサービスを受けられるよう努めている。		
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望する買い物に出かけたり、ボランティアの来訪や地域の催しものに参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設しているあおいクリニックで受診して頂いている。ご本人・ご家族の希望、又は医師より他科受診の勧めがあった際は受診出来るよう、支援している。	利用開始時に今までの受診経過や受診希望病院を確認し、本人や家族に意向を踏まえて受診の支援をしている。受診時は家族に協力依頼することもあるが、主に職員が付き添いしている。医療連携体制日報で入所者の状況把握をしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携日報を活用している。又、変化があった際はその都度連絡し指示を受け、連携している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は細目に病院へ連絡または訪問し、状態の把握、今後の予定等話している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时・入居契約時に指針マニュアルを説明し、同意・捺印を頂いている。又、重度化や終末期になられた際にも再度説明聞き取りをしている。	重度化や終末期の在り方について事業所の対応方針があり、文章で明文化している。利用開始時や必要時事業所が対応できる支援について説明を行っている。利用者や家族に意向を大事にしながら、職員・かかりつけ医・家族・本人で話し合いをして、方針の共有をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会資料やマニュアルを活用している。日々の防災訓練の中にも事故発生時の対応の仕方を取り組み、定期的に再確認している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を実施し、消防署立ち合い、地域の方とも交流をしている。ほぼ毎日防災訓練の勉強をしている。小規模避難訓練を出来る時に行っている。	災害対策のマニュアルを作成している。年2回避難訓練を行い、内1回は夜間想定をしている。年1回は消防署の協力を得て避難訓練・経路の確認・消火器の使い方を実施している。地域の人の参加もある。できる時は防災訓練では避難経路の確認等その日の担当者が個別で行っている。非常用食品や飲料水等備蓄は施設内に準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄の際にはカーテン、タオル等を使用しプライバシー保護に努め、ご本人が気分を害されないよう声掛け対応を心掛けている。記録、個人情報の管理には注意を払っている。	排泄時はドアを閉める、トイレ誘導時は人前では大声で言わない等、排泄や入浴時は特にプライバシーに配慮している。外部の人の前で利用者のプライバシーについては話さないようにしている。ミーティング時繰り返しプライバシー保護については話をして意識づけをするようにしている。管理者は日々利用者と職員の関わりを確認している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご本人の意思を大事にして頂く為、自己決定の場を設けるよう工夫している。更衣の際でも2枚用意し選んで頂いたりしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	眠たいと言われる方は部屋で休んで頂いている。お腹がすいている方へは食事時間をずらして提供させて頂いている。お一人お一人に合わせた環境作り、自己決定を大事にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時等には洋服を選んで頂いたり、お化粧を希望される方にも支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、個々の好き嫌いを把握し、嫌いな物の時には別の物を提供している。時にはお弁当などを注文し、食べたい物を選んで頂いている。食事作り、盛り付け、食器洗いなどもお手伝いして頂いている。	献立はそれぞれのユニットで利用者の食べたいものを取り入れながら作成している。調理をリビングで行うことにより匂いを感じてもらったり、食欲がわくような盛り付けをしている。職員は利用者と一緒に準備や味付け・後片付けをしている。ミキサー食や刻み食・とろみにも対応している。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を記録している。召し上がられない時には補助食をお出しし、お茶が苦手な方にはゼリーにするなど工夫している。その方にあった食事量を調整している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせて口腔ケアの支援を行っており、ケアプランチェック表にもチェックしている。ご家族やご本人の希望により、週に1度歯科医へ診て頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けを行っている。立位が困難な方には負担にならないように職員2人介助で支援している。	職員は利用者の排泄パターンやサインを把握しさりげなくトイレ誘導をしている。尿意がない利用者がトイレで排泄できるように状況に応じて声かけや介助をしている。利用者が失禁している場合は、周囲の人に気づかれないように声かけをしてトイレに誘導をしている。オムツやパット類は状況に合わせて種類や時間帯を見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の副作用が原因となる事があるので、薬については確認を行っており、主治医へ相談し、必要な時には薬を服用して頂いている。又、便秘気味の方へは、ヤクルト、ヨーグルト、健康茶、便秘に良いとされる食物も献立に組み込み提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	体調に配慮しながら入浴して頂いている。ご本人の希望に合わせて入浴して頂いている。	入浴は毎日できるように準備している。入浴を拒む利用者には、時間をおいたり職員が代わって声かけをしている。トイレからでてきた時等タイミングをみながら声かけをしている。洗身用のタオルやシャンプー・石鹸のこだわりがある利用者はそれに合わせるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて昼間も横になって頂いている。居室で休まれる際には、テレビやラジオをつけゆっくり過ごして頂いている。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の薬の内容を把握し、正しく服用して頂けるように支援している。服薬時も飲み終えるまで見守りをしている。薬が変更になった際は主治医へもその後の変化を報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割、楽しみ事や気分転換出来る事など支援している。今までされなかった作業も職員が一緒に行う事によりその方の役割となっている。入居時に生活歴をお聞きし、参考にしている。又、半年に1度アセスメントを行い、その方に合ったケアを実践している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2階の職員と協力し、ドライブに行く機会を設けている。その方の希望に沿って買い物や散歩、年に数回食事会へ出かけている。	利用者の希望を取り入れながら、外出の支援をしている。クリスマスに町中のイルミネーションを見に行ったり、公園や海にドライブに行っている。ドライブは週3～4回行っている。気候がいい時期は散歩は天気がよければほぼ毎日行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替で欲しい物や必要な物は購入して頂いている。お財布を預かっている方には都度確認等、説明をしている。お財布を持たれている方はご自身で欲しい物は購入して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望をされる時には電話でお話出来るよう、支援している。月に一度写真を添えたお便りをご家族へ送付し、近況もお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾り季節を感じて頂けるようにしている。廊下には近所の方が持って来てくださり、一緒に制作した小物を飾り季節を感じて頂いている。廊下にソファや椅子を置いてゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。	月毎に利用者と一緒に作成したはり絵やカレンダーが貼られ、季節感を感じる花等が飾られている。テレビや職員の声は調度よく、カーテンで光の強さを調整している。利用者が居心地がよい環境づくりをしてある。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが居心地良く過ごして頂けるように席の配置を工夫している。廊下にソファや椅子を設置し、好きな時に使用して頂き、休んで頂いている。リビングでテレビを観たい方には自由にチャンネルを変えて頂いている。自らテレビを観ない方には椅子を回転させて進めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に動けるよう、その方にあった配置を考えている。ご家族の写真や、好きなポスターなども飾って頂いている。入居時にその方の馴染みの物を持って来ていただいている。	畳部屋と洋室がある。名札の近くには手作りのマスコットが飾られ、今まで使っていた家具、仏壇やテレビ・冷蔵庫が持ち込まれている。壁には利用者の作品や家族写真が貼ってあり家庭的でその人らしさを感じられる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺り等も配置しており、居室内でも手摺りが必要な方には配備している。日付も分かるように大きくリビングに設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定はいつでも見ることができ、勉強会での認識を実践へつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	校区懇談会や校区の清掃行事に等に参加している。ボランティアの方に来ていただく事もあり、交流を深めている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会のお誘いや地域の方からの相談等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。また、地域懇談会にも参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域交流会への参加を町内会長・老人会会長・ボランティア・家族・包括支援センター等へ促し、ハウスでの生活実情や取り組みを説明している。また、避難訓練の際は地域の方に見学して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で話し合い、ご本人の意思を尊重し行動を共にしたり寄り添う事で安心感を持って頂いている。日中の玄関の施錠をしない等、日頃より意識して取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会や外部研修・Mg等で再確認を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について定期的に勉強会で学んでいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族に十分に説明を行っている。場合によっては本人も交えて行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの更新時にはその都度要望を伺っている。毎月の手紙や来訪時等、こまめに現状報告を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	Mgで職員一人一人の意見を持ち寄り運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、自己評価をしている。半年間を振り返り今後の課題や目標を立てて向上心につなげている。自己評価と所属長の評価を踏まえて賞与の査定をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用は本部で行っており、性別や年齢等で採用対象から排除とはならない。職員一人一人が長所を伸ばせるような支援・指導を行っている。ユニットのバランスや状況を踏まえて、必要に応じて人事異動も行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権、権利擁護の研修に参加し、資料の閲覧やMg等で職員にフィードバックしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や外部の研修への参加し報告書による情報の共有をしている。毎月勉強会を行い、報告書を提出している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ校区内の懇談会に参加しネットワーク作りに取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族からご本人の話を聞いたり、情報シートに記入して頂いている。職員間でアセスメントを理解し、寄り添う支援を心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族の要望に添った支援ができるよう。まず職員から促すなど話しやすい関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向や思いを考慮してアセスメントを行い、ケアプランを作成している。また、毎月M gでカンファレンスを行い、ご本人が現段階で必要な支援を職員全員の意見を出し合っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の生活ペースに合わせ入居者主体を心掛けている。一緒にドライブへ出かけたり季節ごとの行事に参加等をしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態変化や些細なことでも、逐一ご家族に報告・相談し、要望や意見を尊重している。月に一回手紙を送付し写真と様子をお伝えしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のお知り合いが面会に来られた際や外出先で出会った際には仲介し、困っている時は間に入り対応に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しい方でも職員が間に入り、楽しく過ごせるような交流を図っている。入居者同士の関係性を配慮したテーブル席の配置を決めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、連絡があれば相談等を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	起床・就寝や日中での過ごし方も特に決まりはなく、ゆっくりご本人のペースで過ごせるよう配慮している。ご本人の話や言葉の中から、思いや希望を汲み取り意向に添えるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族にお尋ねし、それまでの生活や好みを把握し支援に取り入れている。馴染みの生活や食事の好みなど、会話や様子から引き出し支援に繋げている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、生活のペースや心身状態、コミュニケーション等で観察を怠らず現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回Mgでカンファレンスを行い、全職員で意見を出し合っている。ケアプラン作成前にご本人・ご家族から意向を尋ね、現段階で必要な支援を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人お一人の日々の過ごし方や会話の中・行動での本人の思いを聞き流さないよう、記録に残し職員間で把握し支援に繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれるご本人の要望やニーズ、ご家族の希望に耳を傾けて、柔軟な支援やサービスを提供できるよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活の中で、一人一人がその資源を把握し資源を把握しながら安心かつ安全に力を発揮し自分らしく生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望やこれまでの生活を大切に、かかりつけ医を選んでいただいている。希望・必要に応じ他科受診、往診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診察時以外にも、体調に変化があった時や職員が気になった事はこまめに看護師に連絡・相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にすぐ情報を提供できるようサマリーを用意している。また、搬送先については事前にご家族に要望を伺っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の在り方についてご家族と話し合い、事業所が出来る事を説明し理解していただき支援を行っている。入居後も気持ちの変化等や状態に合わせ、こまめに話し合い、支援に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、職員は研修や勉強会で実践力を身につけられるようにしている。緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に再確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い地域の方に参加していただき、気づきやアドバイスをもらっている。年に1回は消防署職員が立ち合いで行っている。水害についても年に1回避難訓練を行っている。災害マニュアルも作成し、訓練をしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示や命令的な声掛けにならないよう、相手に決めてもらえるような声掛けを心掛けている。プライバシー保護も尊重し、耳元で話したり、場所を移動して声掛け等をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ決まり事は作らず、何をすることもご本人の意思を尊重している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の体調や様子を見ながら、その方のペースにて過ごしていただいている。ドライブなどそれぞれに応じて、希望に添った支援が出来るよう心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月1回訪問美容室を利用している。希望によりパーマをかけることもあり、おしゃれも楽しんでいただけるようにしている。難しい方でも選択できるような声掛けをしたり、身支度介助の際にはお手伝いをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食事や果物、好みのものを献立に取り入れている。盛り付けや食器洗い等出来る範囲で家事をしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態により、食事・水分の形状を変えて1日の摂取量を確保している。キザミ食・ミキサー食・とろみ材等を使用している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。状態に応じて見守りや仕上げ磨きの介助を行い、自立支援も行っている。週に1回歯科往診を必要な方に受けて頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し排泄パターンを把握して、訴えがなくても立ち上がりや落ち着かれない時にはトイレ誘導を行っている。羞恥心やプライドを傷つけないような声掛けを心掛けている。パットやおむつの使用も十分検討しながら状態に応じて行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表から排便状況を把握して、こまめに水分摂取や食物繊維の多い食べ物等を提供し便秘予防に繋げている。医師と相談しながら、排便状態に合わせて緩下剤の調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の希望やタイミングで入浴していただけるよう心掛けている。浴槽に入るのを拒否される方にはシャワー浴で対応等を行っている。無理強いはしないように努めている。また、必ず入浴前にはバイタルチェックを行い体調管理にも気を付けている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態・状況に応じて、日中も休息していただいている。リビングにはソファもあり、好きな場所でゆっくり過ごせる環境を作っている。夜間は1時間に1回巡視し、室温や電気の明るさ等の確認を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は職員が管理し、受診や往診時にその都度確認している。処方薬の変更があった場合はその後の様子を医師に報告している。服用が困難・拒否がある方にはついては医師と相談を行い、つぶして提供するなど工夫している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活習慣や生活歴について把握し、その方の能力に合わせた活動や作業を提供しやりがいを見つけていただいている。好きな物や興味のある物にも、積極的に取り組んでもらえるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や帰宅願望が強い方などには、気分転換にドライブや散歩へお誘いしている。地域の祭り、野球観戦やあじさい見学等の行事には参加し、普段とは違う楽しみを提供できるようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ハウスでは個人のお金はお預かりしていないが、本人の希望や外出時に必要な時などは立て替えをし、いつでも使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したい、手紙を送りたい等の要望があれば出来る範囲内で支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、毎月のカレンダーを手作りで入居者と作ったり等して、季節感を感じていただけるようにしている。テレビの音・声・光・温度の調節を行い、過ごしやすい環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置は入居者間の相性や性格等を考慮している。リビングにはソファもあり、好きな場所でゆっくり過ごしていただけるような居場所を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に以前から使用されていたタンスや小物などを持って来ていただき、安心して生活できるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどには手すりを付け、つかまりながら歩けるようにしている。居室内も動線を考えた配置にしている。車椅子でも通りやすいように廊下・リビングは広々と使用できるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない